

国語 第4学年 じょうほうのとびら：引用する 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、引用と自分の言葉の区別という目標を保ち、引用を含む説明文で学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時数は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「じょうほうのとびら：引用する」 教材名「じょうほうのとびら：引用する」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に必要な調べ方や記録の仕方を確かめ、情報を扱う活動で使う。思考・判断・表現では、短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む。交流や試行の前後を比べ、引用を含む説明文を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①引用する部分を元の資料と同じ言葉で示し、自分の文との区切りと出典を明らかにしている。〔知識及び技能〕(2)イ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、自分の説明に必要な引用を選び、段落の中で引用と説明がつながるように構成を考えている。(B(1)イ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、引用と自分の言葉の区別を中心に学ぶ。短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(2)イとB(1)イに関係する学習である。成果は、引用を含む説明文に示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、借りた文を自分の文として書くことである。教師作成資料を使い引用符と出典の対応を確認する。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時（本時）：○短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む。○どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明かを考え、最初の答えとその理由を残す。 評価：知①・思①（発言・学習記録）

第2次 第2時：○友達の説明と比べ、引用を含む説明文を見直す。○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。 評価：思①・態①（見直しの記録）

6 本時の指導（1／2）

(1) 本時の目標

必要な部分を正確に引用して出典を添え、自分の説明と引用の関係が伝わる段落を構成できる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：１ 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。

○「どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明か」

【めあて】引用と自分の言葉の区別について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・引用した部分と自分の考えを分けたい。

・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例を見える所へ置く。借りた文を自分の文として書く姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：２ 短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込む。

３ 書いたものを読み返し、「どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明か」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認する。

４ 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。

○引用を置く前後の文を読み、自分の説明のどの部分を確認するための引用かを説明する。伝わりにくい場合は、引用の位置や前後の文を直す。

予想される児童の反応：・引用した部分と自分の考えを分けたい。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：教師作成資料を使い引用符と出典の対応を確認する。知識・技能では、引用する部分を元の資料と同じ言葉で示し、自分の文との区切りと出典を明らかにしている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①自分の説明に必要な引用を選び、段落の中で引用と説明がつながるように構成を考えている。(B(1)イ) (初稿・見直した稿・修正理由)

【まとめ】

学習活動：５ 引用を含む説明文を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】資料から必要な部分を正確に引用し、出典を示して、自分の説明とは区別する。引用を置く場所と自分の説明のつながりも確かめる。

６ 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。どこまでが資料の言葉でどこからが自分の説明かへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①（引用を含む説明文と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

（３）本時の評価

おおむね満足できる状況は、短い資料から必要な部分を引用し、出典を添えて自分の説明に組み込むという学習に取り組んでいる姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。借りた文を自分の文として書く場合は、教師作成資料を使い引用符と出典の対応を確認する。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

（４）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には引用と自分の言葉の区別を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に引用を含む説明文で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

